

日本気象学会

昭和38年度春季総会提出議題

イ. 藤原賞(気象学会の部)受賞者選定規程に関する件

1. 藤原賞(気象学会の部)受賞者を選定するため藤原賞候補者推薦委員会(以下委員会と称する)を設ける。
2. 委員は5名の審査委員をもって組織し、委員は毎年8月理事長が会員の中よりこれを委嘱する。ただし気象学会賞候補者推薦委員と重複しても差しつかえない。
3. 委員会は原則として気象学に関する調査、研究、総合報告、著述等により、日本の気象学及び気象技術の向上に寄与したものを1件を選び2月末までに選定理由書をつけて理事長に報告する。
4. 理事長は常任理事会にかけ全理事にたいし無記名によってその可否を投票させる。全投票数は理事総数の4分の3以上でなければならない。有効投票のうち3分の2以上可とする得点があるものを受賞者と決定する。
5. 藤原賞は原則として賞状及びメダルならびに副賞(賞金)とし総会に於てこれを贈呈する但しメダルは1件2名までとし、1件3名以上の場合は常任理事会においてその都度決定する。また賞金は原則として1件5万円とする。

提案理由

藤原賞の設定については昭和35年5月13日の大阪における総会で承認されたが、その実施に関し藤原賞

委員会から申入れがあったので、学会賞と対比してその性格を明かにしたい。

ロ. 細則一部改正に関する件

- (1) 第6条第9項「次点者の順序は、……」中次点者を得票者に改める。
 - (2) 第6条第9項の次に次のものを加える。
10. 次点者は第6条第8項の条件を満たし、同条第1項の定員外の者とし、その順位は同条第9項に準ずる。

提案理由

役員選挙にあたり、その順位決定で細則の条項が明瞭でないので一部改正したい。

ハ. 国際雲物理学会議開催に関する件

提案理由

1961年9月豪洲で開催された第3回国際雲物理学会議において、日本代表の磯野・孫野両君より1965年ごろ日本で第5回会議を開催したい旨提案したところ、全員の積極的な賛成を得た。よって学術会議地球物理研連気象分科会においては慎重審議のうえ、学術会議主催の下に1965年秋ごろ日本で開催するよう学術会議第4部会に申請中であるが、1954年スイスで開催予定の第4回会議は中止の可能性もあり、1965年秋ごろ日本で開催することに対し日本気象学会が全面的に賛成し、積極的に活動することを提案する。

理 事 会 だ よ り

第8回常任理事会議事録

日 時 昭和38年2月4日(月) 17.00~20.30

場 所 神田学士会館

出席者 皇山, 村上, 神山, 有住, 須田, 今井, 増田, 岸保, 吉武, 松本, 淵 各理事(順序不同)

決 議

1. 春季大会でシンポジウムを行なわない。
2. 学会賞、藤原賞は候補者推薦委員会の報告に基づき全理事で決定する。
なお、藤原賞のメダルについては吉武理事が案をつくる。
3. 明年度の月例会スケジュールを次のように決める。

昭和38年度月例会スケジュール

38 年

6 月 豪雨, 乱流, 山の気象

7 月 水気象(水収支その他)

8 月 気象学史と気象教育

9 月 高層気象, 生気候

10 月 気象災害, 気象統計

11 月 大気汚染, 風のシンポジウム

12 月 台風

39 年

1 月 太陽活動と放射, 気候, 気象電気

2 月 長期予報, レーダー気象, 測器, 水気象(融雪その他), 数値予報

3 月 メソ気象, 豪雪, 航空気象(大阪で)

4. 80周年特集号の原稿が遅れているので適当な分冊にして早く出すようにする。